様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２６ 年　 ６ 月 １３ 日現在

機関番号：１２１０１
研究種目：新学術領域研究（研究領域提案型）
研究期間：2009～2013
課題番号：２１１０１００１

研究課題名（和文）環太平洋の環境文明史

研究課題名（英文）Pan Pacific Environmental Changes and Civilizations

研究代表者
青山　和夫（AOYAMA, Kazuo）

茨城大学・人文学部・教授

研究者番号：７０２９２４６４

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　36,100,000円、（間接経費）　10,830,000円

研究成果の概要（和文）：本領域研究は、平成21年度新学術領域研究の人文社会系で唯一採択された。本領域は、既存の学問分野の枠に収まらない新興・融合領域である「環太平洋の環境文明史の創成を目指した。つまり文系でもない、理系でもない全く新しい歴史的知の枠組みを構築していった。本領域が革新的・創造的な研究を推進することで、従来の西洋中心的な人類史を再構成する上で大きく貢献すると共に、当該領域の学術水準を国際的に向上・強化し、革新的な人材育成に繋がると期待される。この貢献は現代地球社会の諸問題解決の糸口を見出し、持続可能な発展を遂げていくための科学的知見に資するものである。

研究成果の概要（英文）：Our research project was accepted as the only project in social and human sciences among the Grants-in-Aid for Scientific Research on Innovative Areas in 2009. Our project intended to construct a new historical paradigm "Pan Pacific Environmental Changes and Civilizations." The objective of this project was to make a diachronic comparison of the rise and fall of non-Western Pan Pacific civilizations, including Mesoamerica, the Andes, the Pacific islands, and Southeast Asia. The environmental changes and the rise and fall of Pan Pacific civilizations were investigated by means of a study of annually laminated sediments, in order to bring to light their historical lessons and their implications for the modern world. The results of this innovative project will have important contributions to reconstruct not only non-Western centric but also the more global history of humankind and lead to a better understanding and amelioration of contemporary problems.

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：史学・考古学

キーワード：国際研究者交流　環太平洋　環境文明史　歴史的教訓　今日的意義　通時的比較研究　年縞　社会還元

１．研究開始当初の背景

近年「文明の衝突」（サミュエル・ハンティントン、政治学）を契機に、人類の文明史と環境史との相関を扱った出版が相次いでいる。人文科学領域では「世界文明一万年の歴史」（マイケル・クック、歴史学）、「大温暖化」（ブライアン・フェイガン、考古学）、自然科学領域では「銃・病原菌・鉄」（ジャレド・ダイアモンド）等が世界的に注目を集めている。また地球温暖化とその人間社会への影響は国際政治の重要課題となっており（IPCC 2007）、こうした背景のもと、Nature等の一般科学誌だけでなく地球物理学等の専門誌でも、環境変動と文明社会の関わりを考察した論文が増加している（Yancheva et al. 2007）。これらに共通する問題点は、人文領域の研究者は著名な古環境記録の地域性や性能（時間分解能や誤差）を理解することなく引用し、自然科学領域では教科書レベルの粗い歴史事実を抜き出して、対応の良いところのみを学説の根拠としていることである。本研究領域は、こうした問題点を克服するために研究着手時から人文・自然科学の緊密な連携協力を行った。

２．研究の目的

（1）環太平洋の非西洋型諸文明（メソアメリカ文明、アンデス文明、太平洋の島嶼文明など）の盛衰に関する通時的比較研究を行う。
（2）環境史の精緻な記録である湖沼年縞堆積物を用いた環太平洋の環境システムの変遷史と諸文明史の因果関係を詳細に明らかにする。
（3）環太平洋の環境文明史の歴史的教訓と今日的意義を探求する。

３．研究の方法

（1）本領域研究を推進するために、年縞によって復元された高精度の環境史を軸として、実証的に歴史的考察を行い、環境文明史を創成するという方針を堅持する。
（2）総括班が指導的な役割を果たしつつ、各研究項目で明らかになった環境史（A01）と文明史（A02～ A04）の通時的研究に関する成果を精査し、本領域の大目標である両者の統合を推進する。
（3）本領域の研究成果を国内外に積極的に発信し続けることによって、当該領域の学術水準を国際的にさらに向上・強化していく。

４．研究成果

総括班のメンバーは、各研究項目の連携や計画研究と公募研究の調和を図るために以下の項目を実施した。

（1）<u>領域全体の研究方針の策定と企画・調整</u>：研究組織のデータベースとメーリングリスト（ML: 総括班、各研究項目別）を採択直後に作成し、適宜更新しつつ密接に連絡を取り合った。

（2）<u>領域における公募研究の役割と位置付けの明確化</u>：環境史を高い精度で復元して通時比較研究を実施することを前提とした、環太平洋地域（アジア、西太平洋、アメリカ大陸）の地域史・文明史に関する、理論的あるいは実証的な研究を公募した。<u>公募研究を、若手研究者による挑戦的な提案、各研究項目を連結することを可能にする研究、共通性が認められる研究と明確に位置付けて、より開かれた研究領域を目指した</u>。H22-23年度に計画研究A03アンデスと日本列島の動物考古学の比較研究（鵜澤）という挑戦的な提案、オセアニア島嶼域の環境文明史（印東）という計画研究A04琉球・島嶼文明史と共通性が認められる研究の2つの公募研究、H24-25年度にメソアメリカの代表的なテオティワカン文明の崩壊プロセス（嘉幡）という計画研究A02メソアメリカ、東南アジア・オセアニア海域の海洋資源利用の環境文明史（小野）という計画研究A04琉球・島嶼文明史にそれぞれ共通性が認められる研究の2つの公募研究を採択した。その結果、<u>他の太平洋諸地域に目配りし、地理的により広い視野をもって領域研究を進めていく体制が整った</u>。

（3）<u>研究活動の監督と連携の強化</u>：個々の研究項目の成果のとりまとめで終わらせず、研究領域としての研究を推進、発展させていくために、総括班は、<u>領域会議として国際研究者全体集会を毎年度1回の計5回主催</u>した（表1）。研究代表者、研究分担者、連携協力者、研究協力者が研究成果を発表して議論を深め、各研究項目の連携を深めた。公募研究の研究代表者と領域の設定目的の共通理解に努めるために、公募研究期間中の国際研究者全体集会で研究発表してもらうだけでなく、公募研究期間外の国際研究者全体集会にも参加してもらい研究項目と公募研究の調和を図った。各研究項目間の連携をより密接かつ円滑にするために、総括班は、<u>研究項目間の公開合同研究会を計6回主催</u>した（表2）。領域研究の全メンバーが参加する国際研究者全体集会と比べて、より少人数のメンバーが詳細なデータを含む長めの研究発表を行い、より綿密な議論を重ねて共同研究を推進できた。

表1　領域会議：国際研究者全体集会一覧
第1回国際研究者全体集会：H22年10月4日、茨城大学人文学部（水戸市）
第2回国際研究者全体集会：H22年5月16日、国際日本文化研究センター（京都市）
第3回国際研究者全体集会：H23年5月22日、沖縄県立博物館・美術館（那覇市）
第4回国際研究者全体集会：H24年6月3日、札幌大学（札幌市）
第5回国際研究者全体集会：H26年2月9日、慶應義塾大学三田キャンパス（東京）

表2　研究項目間の公開合同研究会一覧
（1）研究項目A01・A02・A03の年縞環境史・メソアメリカ・アンデス公開合同研究会「環境史と文明史のアーカイブ統合：その方法論とデータベース構築」、H22年10月2日、山形テルサ（山形市）
（2）研究項目A01・A04の年縞環境史・琉球環境文化史研究会第1回公開合同研究会、H23年2月12-13日、沖縄県立博物館・美術館（那覇市）
（3）研究項目A01・A04の年縞環境史・琉球環境文化史第2回公開合同研究会、H23年7月9-10日、沖縄県立博物館・美術館（那覇市）
（4）研究項目A01・A03の年縞環境史・アンデス第1回公開共同研究会、H24年1月17日、キャンパス・イノベーションセンター東京（東京）
（5）研究項目A01・A02・A03・A04の年縞環境史・メソアメリカ・アンデス・琉球島嶼文明史の公開共同研究会、H25年3月5日、専修大学神田キャンパス（東京）
（6）研究項目A01・A03の年縞環境史・アンデス第2回公開共同研究会「ナスカ海水利用調査とナスカ年輪分析」、H25年4月21日、東京大学総合研究博物館（東京）

（4）よりバランスの取れた「真の世界史」に向けて：歴史教育への貢献と研究成果の普及は、本領域研究、そして全ての歴史研究者の重要な使命である。研究項目 A02 研究代表者と研究分担者の青山と井上、研究項目 A03 研究代表者の坂井らは連携をさらに強め、コロンブス以前のアメリカ大陸に関する高等学校世界史教科書問題、マスコミ報道の改善・対応、研究成果の一般社会への発信を含めた学術情報の普及戦略を検討し、共同研究の成果を『古代アメリカ』（青山他 2009, 2010a）と『考古学研究』（青山他 2010b）に出版した。高等学校世界史教科書におけるコロンブス以前のアメリカ大陸の記述を改善するために、計 9 社の 24 冊の教科書と世界史用語集を精査して、誤った事実や不適切な記述を検討し、修正案を練り上げて 2010 年 8 月に教科書会社 9 社に送付した。さらに青山らは、公開シンポジウム「マヤ・アンデス文明の謎と神秘のベールをはぐ」を 2010 年 10 月に仙台国際センターで開催した。

青山、坂井、井上、研究項目 A02、A03 の研究分担者の井関、長谷川、松本、公募研究の嘉幡が、2013 年 4 月から大幅に改訂された高等学校世界史の新課程教科書を検討したところ、先スペイン期のアメリカ大陸史に関する記述は、教科書会社によって温度差があるものの、青山らの教科書修正案に大なり小なり従う形で改善されたことがわかった（青山他 2013）。たとえば、グアテマラのセイバル遺跡で前 1000 年頃に建造されたマヤ低地で最古の公共祭祀建築と公共広場に関する研究項目 A02 による新知見（青山 2012, 2013; Inomata *et al.* 2013）が反映され、マヤ文明の繁栄が「4 世紀ころから 9 世紀に」ではなく「前 1000 年頃から 16 世紀に」に修正された（山川出版社『詳説世界史』）。第一学習社『高等学校世界史 A』では、旧課程教科書にはなかった「ナスカの地上絵」の囲み記事が追加され、研究項目 A03 による研究成果が反映されている。最も重要なことは、新課程教科書では、「四大文明」という日本の高校世界史教科書に 1952 年に登場した世界的にみても珍奇で時代遅れの世界史の語りが皆無になったことである。大部分の新課程教科書では、スペイン以前のアメリカ大陸の諸文明は、ヨーロッパ人によって発見され植民地化された「敗者の文明」としてだけ付随的に語られるのでなく、「諸地域世界の形成」において主体的に登場するようになった。

（5）研究成果の総括と評価：総括班は、計18回（H21年10月に2回、12月、H22年3月、5月に2回、10月、H23年5月に2回、9月に2回、H24年1月、3月、6月、H25年3月、5月、6月、H26年2月）の総括班会議を開催し、領域の企画調整、各研究項目の研究の成果や進展状況を報告し、意見交換と評価を行った。総括班は、必要性に即応してウェブ会議やML持ち回り会議を開催した。個々の研究項目の活動（調査・分析・発表など）を迅速に把握し、研究項目間の連携を強めた。そして、中南米での研究項目A01調査への研究項目A02、A03の共同研究、南西諸島での研究項目A01調査への研究項目A04の共同研究、研究項目A01が採取した試料の研究項目A04への提供など、各研究項目の連携を強化して共同研究を実施した結果、効率的な領域運営を実現できた

。特に日本と比べると治安が悪くスペイン語が公用語であるグアテマラとペルーにおける研究項目A01湖沼調査では、長年の調査経験から現地の状況を周知している研究項目A02とA03の研究代表者の青山と坂井が、調査地の選定や現地での調査活動、さらに試料の輸出などで全面的に協力し、いずれの地域でも良好な堆積物試料を得ることができた。

（6）本領域研究に参加した大部分の研究者は中堅・若手であり、本領域研究を推進することによって、当該領域における人材育成に繋げた。本領域研究に参加中の若手の研究者のうち 8 名が常勤、7 名が任期付の研究職を得た。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 0 件）

〔学会発表〕（計 0 件）

〔図書〕（計 0 件）

〔産業財産権〕
○出願状況（計 0 件）
名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計 0 件）
名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等
http://dendro.naruto-u.ac.jp/ppecc/
http://info.ibaraki.ac.jp/Profiles/5/0000403/profile.html

６．研究組織
(1)研究代表者
青山 和夫（AOYAMA, Kazuo）
茨城大学・人文学部・教授
研究者番号：70292464

(2)研究分担者
米延 仁志（YONENOBU, Hitoshi）
鳴門教育大学・大学院学校教育研究科・准教授
研究者番号： 20274277

高宮 広土（TAKAMIYA, Hiroto）
札幌大学・文化学部・教授
研究者番号： 40258752

坂井 正人（SAKAI, Masato）
山形大学・人文学部・教授
研究者番号：50292397

安田 喜憲（YASUDA, Yoshinori）
国際日本文化研究センター・研究部・名誉教授
研究者番号： 50093828